

緋のデジタルアーカイブ構築に 向けた取り組みに関する報告： 現状に至る取り組みと構想

江口久美¹⁾，須藤竜之介²⁾，布施健吾¹⁾，鹿野雄一¹⁾，久保裕貴³⁾

¹⁾九州オープンユニバーシティ(QOU)，

²⁾九州大学，³⁾感性AI株式会社

1.はじめに： 絣の定義

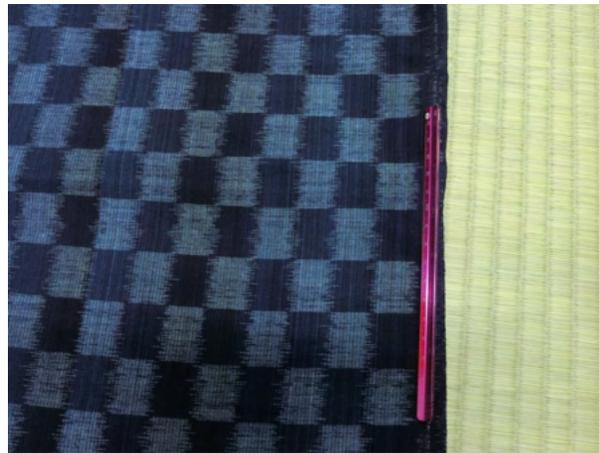
- 「経（たて）糸か緯（よこ）糸、あるいは双方の糸を染め分けて絣糸（まだらに染めた糸）をつくり、この絣糸で柄をあらわしながら織り上げた」伝統工芸の織物である（中江、2013）。



久留米絣の経絣（発表者撮影・下川織物所蔵）

経絣、緯絣、経緯絣

- 絣は経糸または緯糸のみを染め分けた経絣、緯絣、双方の糸を染め分けた経緯（たてよこ）絣が存在する。



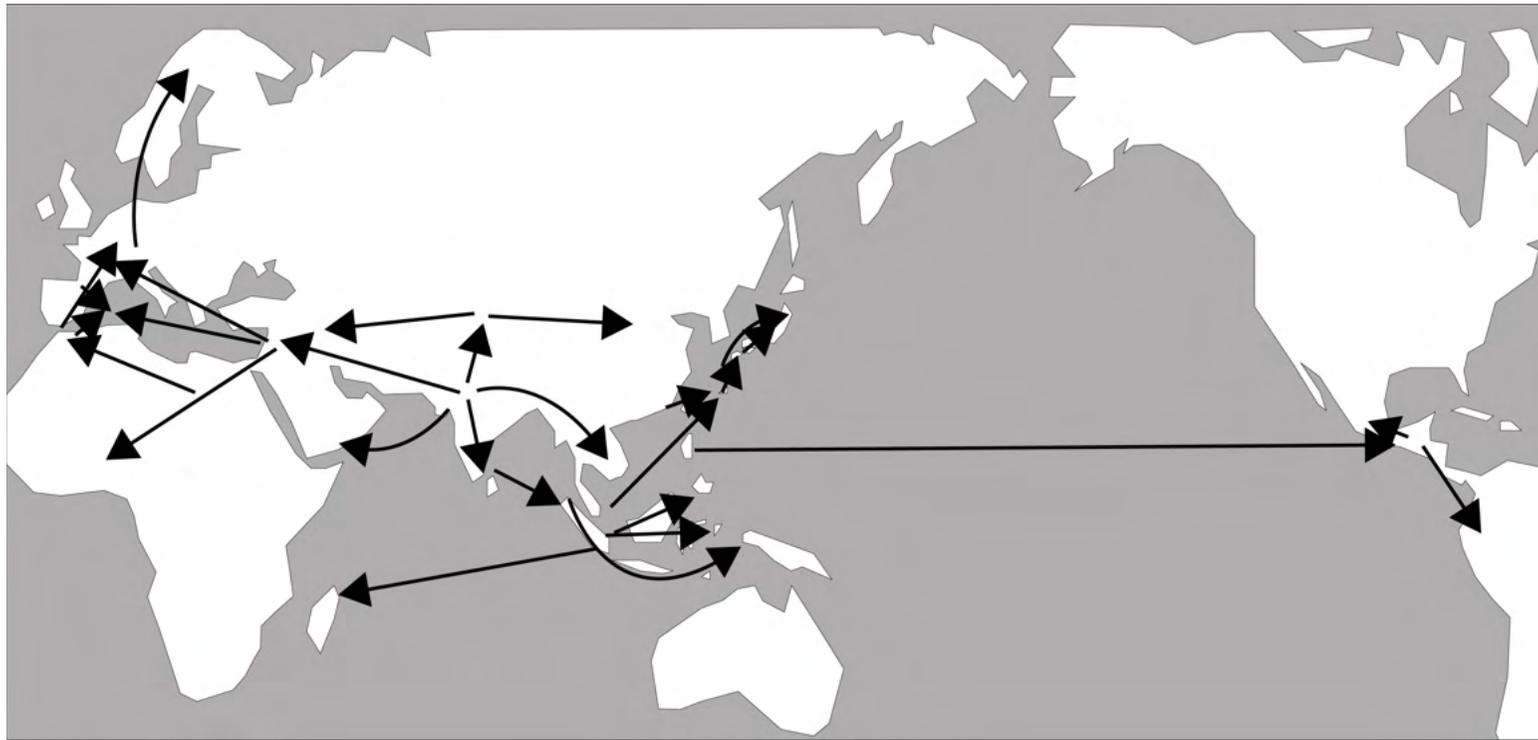
左図から久留米絣の経絣・緯絣、経緯絣（発表者撮影・下川織物所蔵）

本発表の背景と目的

- 絣文化は、8世紀頃にインドで発祥し世界中に伝播したものであるが、世界的に衰退の危機に瀕している。
- 発表者らは2017年度から現在まで、筑後地区および広川地区（福岡県筑後市及び八女郡広川町周辺）に現存する久留米絣協同組合所属の織元やフランス、インド、メキシコ等において調査を行なってきた。
- 本発表は、世界的な伝統工芸である『絣』の紋様に関する総合情報をオンラインでデジタルアーカイブとして公開する取り組みに向けた報告である。

2. 絣の伝播の歴史と現況

- 絣はインドで発祥した後、東南アジア方面に伝播した。
- 琉球には、15世紀頃にジャワから絣が伝播した。
- 日本三大絣産地（久留米、備後、伊予）において江戸時代後期から流行が起こった。



岡村吉右衛門の構成による絣の伝播主要ルート想定図（出典：江口久美. 文化伝播の経糸と緯糸—絣（かすり）織り文化の世界史における伝播経路. 稲賀繁美編「映しと移ろい文化伝播の器と蝕変の実相」. 花鳥社, 2019, 120p.）

フランスとメキシコの絹

18世紀フランス(Chiné à la
branche)



絹のタフタのローブ・ア・ラ・
フランセーズ (出典：
<https://www.thierrydemaigret.com/lot/26753/5791052>)

現代のメキシコ(Rebozo)

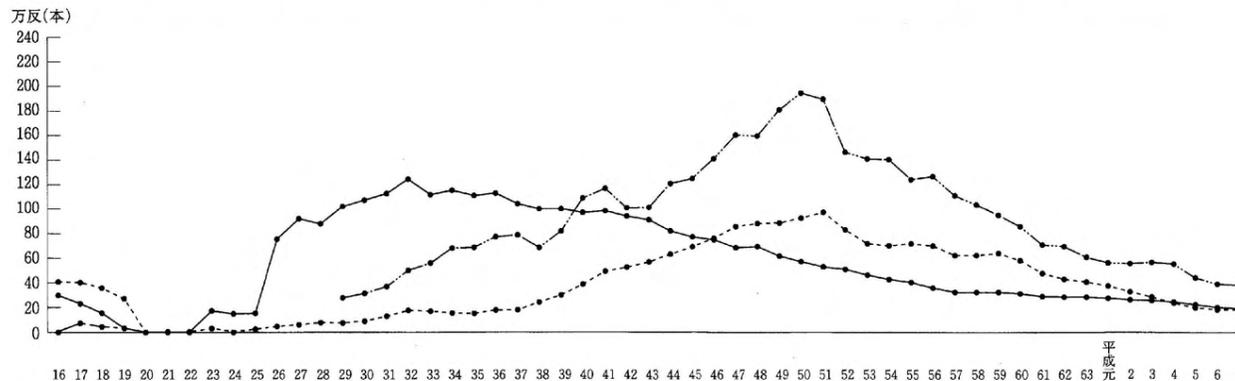
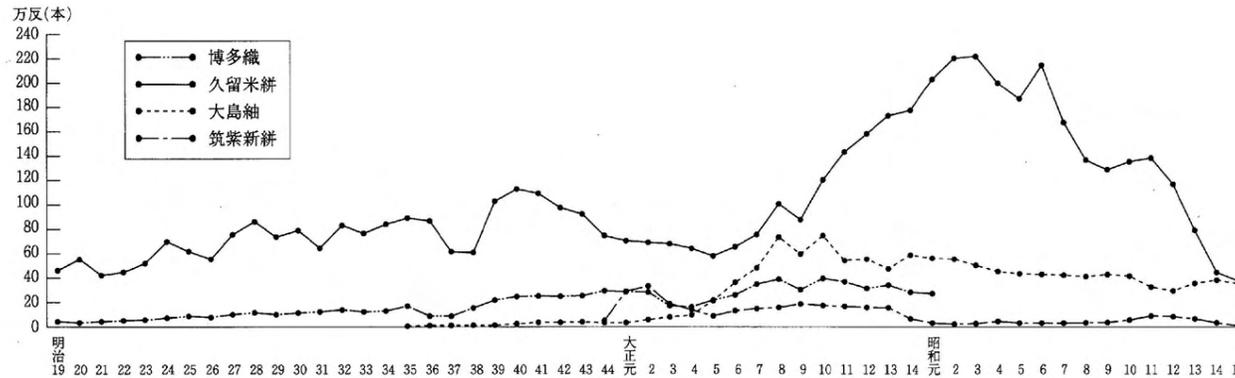


メキシコのレボソ (Rebozo Tenancingoにて
発表者撮影)

- 経緯緋の製作には高度な技術が必要とされ、その存在は現在のところ、日本の他にはインドネシア・バリ島におけるグリーンシンなど、世界でも数カ所においてのみ確認されている。
- 世界中に広く伝播した緋であるが、その文化は衰退の危機に瀕している。
- 久留米緋を例に取っても、昭和初期の最盛期には年間220万反の生産量を誇っていたが、その後減少を続けている

— 9 ~ 10 —

第1図 各産地における生産数量の推移



伝統織物の生産量の推移（出典：高向嘉昭.九州伝統織物産業の生成と展開.九州産業大学商経論叢. 37(3).1996, 9-10p.)

3. 絣のデジタルアーカイブ構想

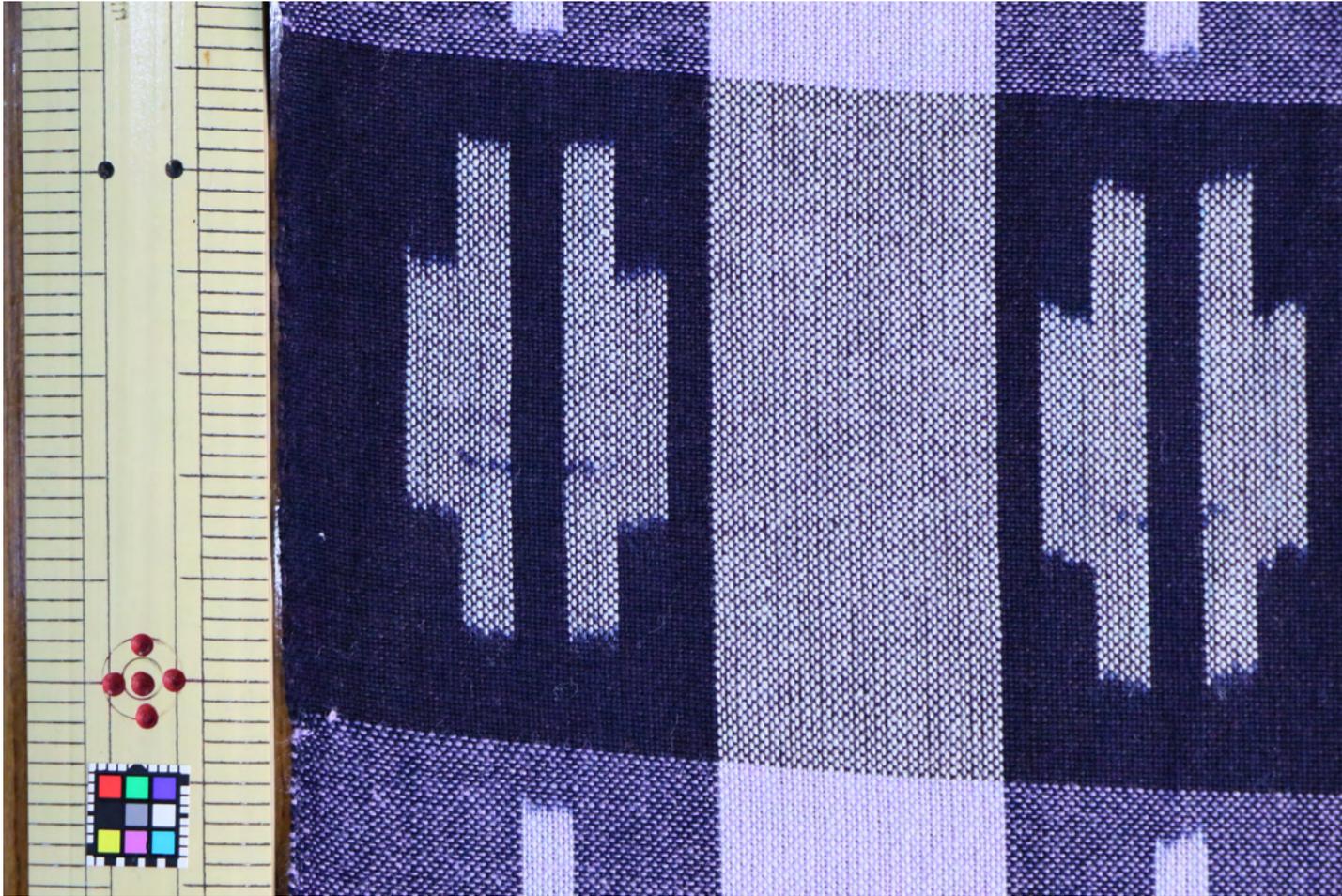
3.1 デジタルアーカイブの概要

- 生物学の手法に基づき、世界各地の生地見本帖から主要な絣のパターンを収集し、紋様の最小単位（モチーフ）を抽出し、データベース化する。
- 久留米絣の例では、各紋様について、反物に対する図案の最小単位である1絵紙分（約38センチ×約24センチ）の画像、紋様の最小単位の画像、分類情報、織元への聞き取り情報が付随する。

番号	調査日	織元名	年代	経緯絣	色名	シンボル1	シンボル2
1	2019/10/26	下川織物	2009	経緯絣	黒	文人	モンテスラ
2		下川織物	2016	経緯絣	黒	市松	トランプ
3		下川織物	2012/2013	経緯絣	藍	正方形	無し
4		下川織物	不明	経緯絣	ネイビー	丸	無し
5		下川織物	不明	経緯絣	ネイビー	文人	椿
6		下川織物	2016	緯絣	ネイビー	七宝	無し
7		下川織物	不明	経緯絣	藍	チェック	無し
8		下川織物	不明	経緯絣	黒	長方形	無し
9		下川織物	2013	経緯絣	ネイビー	長方形	無し
10		下川織物	不明	緯絣	紫	丸	花
11		下川織物	2012	緯絣	藍	丸	花
12		下川織物	2012	緯絣	グレー	丸	花
13		下川織物	不明	緯絣	青	丸	無し
14		下川織物	不明	緯絣	赤	丸	無し
15		下川織物	2010	経絣	藍	ボーダー	無し

久留米絣の分類情報及び織元への聞き取り情報の一例

- 画像は、生物学的記録手法に基づき、シンボルのサイズおよび色を確定させるため、スケールと画像補正用カラーチャートも共に撮影される。



久留米絣の画像の一例(発表者撮影・下川織物所蔵)

- アーカイブの対象地は、日本三大絣産地（久留米、備後、伊予）、沖縄（琉球）、フランス、メキシコ及び、インドで発祥した後、東南アジアに広まった絣の伝統的な形態が残された主要な産地としてカンボジアを予定している。
- 推定される伝播経路上に時間軸も考慮しながら位置付け、アーカイブを作成する。
- 紋様数について、久留米絣の1織元あたりでは、約300種類、サンプルブックも含めると約1,000種類に及ぶ。

- ウェブサイトのシステムは、QOU・鹿野雄一により管理・作成されている日本をはじめモンsoonアジアの淡水魚および淡水生物等に関する既存の生物多様性総合データベース (<http://ffish.asia>) のシステムに基づいて構築することを想定している。

ffish.asia カテゴリ 地図 その他 キーワード・塩基配列 観察記録 En

キーワード検索 塩基配列検索 [Blast]

標本・観察記録を検索 部分一致 詳細検索 地図表示 Off On

54506 件 [21~40件目を表示]

[1] << Back 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 Next >> [2726]

	標本・確認 ID	関連ファイル	その他情報	種	DNA情報	場所
詳細	ヤリタナゴ QS1223-W0 2 	 	標本・観察の タイプ: 目 視・観察・記 録のみ 在来性: 在来 雌雄: ♂オス	 ヤリタナゴ <i>Tanakia lanceolata</i> ♡5 🗨️0		QS12 日本 2022/4 
詳細	アブラボテ QS1223-W0 1 	 	標本・観察の タイプ: 目 視・観察・記 録のみ 在来性: 在来	 アブラボテ <i>Tanakia limbata</i> ♡4 🗨️1		QS12 日本 2022/4 

ffish.asia ウェブサイト (出典: <http://ffish.asia>)

- 緋のデジタルアーカイブウェブサイトは検索機能を持っており、難読漢字による紋様名称や技法および英語（アルファベット）での検索にも対応する。

Keyword search
Detailed search

Perfect matching▼

Search

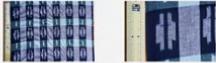
Production year▼

Workshop▼

Ikat▼

Research date

1.2.3.Next>>

No.	Date	Workshop	Image	Year	Ikat	Color	Symbol1	Symbol2	Reference
1	26/10/2019	Shimogawa orimono		2009	Double ikat	Black	Bunjin	Montesra	Eguchi et al. 2021
2	26/10/2019	Shimogawa orimono		2016	Double ikat	Black	Ichimatsu	Playing cards	Eguchi et al. 2021
3	26/10/2019	Shimogawa orimono		2012/2013	Double ikat	Indigo	Square	None	Sudo et al. 2021
4	26/10/2019	Shimogawa orimono		Not clear	Double ikat	Navy	Round	None	Sudo et al.

× Interview information

The one whose warp is bunjin is bunjin gasuri. The white part of the warp is indigo dyed. A quarter of the warp (2: 6). 12.5% is indigo dye and the others are chemical dyes.They make various things at this time. The pattern of a plant called Monstera. The handle came from a wholesaler. Bunjin gasuri does

英語版ウェブサイトのイメージ（テキスト検索）

- テキスト検索ではキーワード検索および年代別などの詳細検索が可能であり、画像と文献情報が付記され、ポップアップで聞き取り情報が表示される。

キーワード検索
詳細検索

文人絣

完全一致▼

検索

制作年代▼

織元▼

経緯絣の別▼

調査日 (年月日)

1.2.3.Next>>

番号	調査日	織元名	画像	年代	経緯絣	色名	シンボル1	シンボル2	文献
1	2019/10/26	下川織物		2009	経緯絣	黒	文人	モンテスラ	Eguchi et al. 2021
2	2019/10/26	下川織物		2016	経緯絣	黒	市松	トランプ	Eguchi et al. 2021
3	2019/10/26	下川織物		2012/2013	経緯絣	藍	正方形	無し	Sudo et al. 2021
4	2019/10/26	下川織物		不明	経緯絣	ネイビー	丸	無し	Sudo et al.

× 聞き取り情報

経糸が文人であるものが文人絣。経糸の白い部分は藍染。経糸の4分の1（2：6）。12.5パーセントが藍染であり、それ以外が化学染料である。この時期に色々作っている。モンテスラという植物の柄。柄は問屋から来た。文人は括弧ない。織り貫き、織り締め（織った後で染めた抜いた横糸を使う。大島

日本語版ウェブサイトのイメージ（テキスト検索）

- 地図検索では、織元別の主要な情報がポップアップで表示されるほか、キーワードおよび詳細検索ができる



ウェブサイトのイメージ（地図検索）（出典：久留米紺共同組合HPを元に発表者作成）

3.2 データベース化する対象と項目

- 主に、緋の紋様の類型化と、聞き取り情報を含む類型化された各紋様の分布情報
- 1レコード当たりの具体的なデータ項目：番号、紋様の収集場所、紋様のある緋の布の状態
- 5つのサブデータベース
 - 環境（織元名・住所・日時）
 - メディアファイル（画像）
 - 紋様分類（年代・経、緯または経緯の別・色名・紋様名称（シンボル名））
 - 聞き取り情報（染料・由来・糸・技法）
 - 文献（著者、年、タイトル、ソース、DOI）



- 久留米緋共同組合ウェブサイト、国立国会図書館デジタルコレクション、国際日本文化研究センターのデータベースおよび文化財保護修復国際センター(ICCROM)との連携を目指す。

3.3 想定される利用対象者と利用内容

• 研究者

- 画像と紐づけられた情報が掲載されているため、データへのアクセスを容易になり、文化の全体像の把握を可能にする

• 教育現場（小学校から大学）

- 紋様の「図鑑」として文化に親しむことを促進することができる。

• 一般の方々

- 「図鑑」として伝統工芸への興味をより引き出すことができる。

• 各織元の職人

- 生地見本帳のアーカイブとして活用できる。デザイン分野におけるAIの深層学習やビッグデータへの適用も可能である

• アパレルメーカー

- 織元が布を販売する際に、生地見本帳を直接見せずに済むため、受注に利便性が出せ、地域産業の外部からの発注を促進する。

4. おわりに

- 衰退の危機に瀕している無形文化遺産である絣について、生物学の手法に基づいたオープンなアーカイブ作成を行うことで、無形文化の記録ツールとして新たな手法を提示することができると考えている。
- 全体像を把握することが困難な無形文化である絣について、各織元の垣根を超えて全体像を可視化することができる。
- 非構造化データである無形文化である絣の情報について、デジタルアーカイブ化を通じて構造化データ化することができるため、情報としての活用可能性を広げ、知識循環型社会の構築を目指すことができる。
- アーカイブ化された絣デザインのAIへの応用を目指したいと考えている。

参考文献

- [1] 中江克己. 日本の伝統染織事典. 東京堂出版, 2013, 191-200p.
- [2] 江口久美. 文化伝播の経糸と緯糸— 緋（かすり）織り文化の世界史における伝播経路. 稲賀繁美編「映しと移ろい 文化伝播の器と蝕変の実相」. 花鳥社, 2019, 117-129p.
- [3] 江口久美. 久保裕貴. 須藤竜之介. 布施健吾. 岡本真祐子. 緋紋様の単位分類に関する一考察. 天然の色—天然染料顔料会議報告 2017. 2018, 95-104p.
- [4] 須藤竜之介. 江口久美. テキスタイルのグラフィックの文化差に対するネイティブの弁別力の検討：インドにおける緋を対象とした事例. 決断科学 8号. 2021, 37-52p.
- [5] 岡村吉右衛門. 世界の緋. 染織の美 初夏. 1984, 40-88p.
- [6] 岡村吉右衛門. 世界の緋について. 『緋の道』, 毎日新聞社, 1984, 171-178p.
- [7] 財団法人伝統的工芸品産業振興協会. 平成17年度伝統的工芸品産地調査診断事業報告書—久留米緋—. 財団法人伝統的工芸品産業振興協会, 2006, 3-6p.